

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	旧約聖書を学ぶ						
担当教員	宮田 玲					科目ナンバ-	Z12030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	モーセ五書を読む						
授業の概要	モーセ五書とは、旧約聖書の最初におかれた五つの書のことで、「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」を指します。ここには旧約聖書でもっとも基本的な内容が記されていて、エデンの園やノアの箱舟などのわたしたちにもなじみのある多くの物語が含まれています。また、新約聖書のエピソードの背景となっているものもあります。授業では、モーセ五書を読みすすめながら、旧約聖書についての理解を深めていきます。特に、「創世記」と「出エジプト記」からはいくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介します。						
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について、基本的な知識を獲得でき、書かれている内容や物語を説明できるようになります。【知識・理解】 また、旧約聖書と新約聖書およびキリスト教を関連づけることができるようになります。【知識・理解】						
授業計画	第1回 新約聖書と旧約聖書、聖書の舞台 第2回 物語(1) アダムとイブの物語 第3回 モーセ五書の成り立ち 第4回 物語(2) ノアの洪水 第5回 物語(3) バベルの塔 第6回 物語(4) アブラハムとサラの物語 第7回 物語(5) 小テスト・サラとハガルをめぐる 第8回 物語(6) イサク奉獻 第9回 物語(7) イサクとリベカ 第10回 物語(8) ヤコブとエサウ 第11回 物語(9) 出エジプト：モーセ 第12回 物語(10) 出エジプト：エジプトから荒野へ 第13回 物語(11) 十戒 第14回 物語(12) カナンへ：モーセの死 第15回 まとめ、質疑応答と試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：次回扱う指定箇所を読み、前回の授業との関連性を予習してきてください。(学習時間2時間) 授業後学習：授業時に配布するプリントに授業内容のキーワードを挙げて要点を文章にまとめてください。(所要時間2時間)						
授業方法	講義 授業で取り上げるテーマにしたがって受講生による意見交換とディスカッションを行いません。						
評価基準と評価方法	学期末試験 60%：基本的な用語の確認と、聖書をどのように読めるかという二点を主として、授業で学んだことの理解度を評価します。 平常点 40%：毎回の聖書箇所朗読と小テストに加え、随時レスポンスペーパーの提出を求めます。						
履修上の注意	毎回プリントを配布します。出席者のみ受け取ることができます。 12回以上の出席を求めます。						
教科書	指定しません。						
参考書	並木浩一・荒井章三(編) 『旧約聖書を学ぶ人のために』 世界思想社 2012年 ISBN:978-4790715566 石川立・中村信博・越後屋朗(編) 『聖書 語りの風景』 キリスト新聞社 2006年 ISBN:978-4873954762 また、授業内で関連参考図書を紹介いたします。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列																																																																		
科目名	教会音楽入門A																																																																		
担当教員	緋田 芳江					科目ナンバ-	Z1213A																																																												
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0																																																												
授業のテーマ	キリスト教音楽の歴史を学び、聖歌、宗教曲を歌う。																																																																		
授業の概要	キリスト教音楽の学びを通して西洋音楽の歴史や楽譜の読み方等、基礎的な知識を習得するとともに、実際に聖歌や宗教作品を歌うことで、呼吸、発声、発音など声楽の基礎も学ぶ。アンサンブルの練習や鑑賞も随時取り入れる。期末試験を実施する。																																																																		
到達目標	キリスト教音楽の概要を理解し、他者に説明することが出来る。【知識・理解】 聖歌を歌うことが出来る。【態度・志向性】 音楽を聴き、理解することが出来る。【汎用的技能】																																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>授業の進め方について</td> <td>および</td> <td>キリスト教と音楽について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>カトリック教会の音楽</td> <td>発声の基礎 1</td> <td>聖歌を歌う</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>英国国教会の音楽</td> <td>発声の基礎 2</td> <td>聖歌を歌う</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>プロテスタント教会の音楽</td> <td>コラール</td> <td>を歌う</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>キリスト教音楽の歴史 1</td> <td>グレゴリオ</td> <td>聖歌を歌う</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>キリスト教音楽の歴史 2</td> <td>中世</td> <td>複旋律を歌う</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>キリスト教音楽の歴史 3</td> <td>ルネサンス</td> <td>ラテン語で歌う 1</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>キリスト教音楽の歴史 4</td> <td>バロック 1</td> <td>ラテン語で歌う 2</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>キリスト教音楽の歴史 5</td> <td>バロック 2</td> <td>英語で歌う 1</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>キリスト教音楽の歴史</td> <td>古典派</td> <td>英語で歌う 2</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>キリスト教音楽の歴史</td> <td>ロマン派</td> <td>合唱曲を歌う</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>キリスト教音楽の歴史</td> <td>近現代</td> <td>合唱曲を歌う</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>楽典の基礎</td> <td></td> <td>合唱曲を歌う</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>声楽の基礎の徹底と復習</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと期末テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							第1回	授業の進め方について	および	キリスト教と音楽について	第2回	カトリック教会の音楽	発声の基礎 1	聖歌を歌う	第3回	英国国教会の音楽	発声の基礎 2	聖歌を歌う	第4回	プロテスタント教会の音楽	コラール	を歌う	第5回	キリスト教音楽の歴史 1	グレゴリオ	聖歌を歌う	第6回	キリスト教音楽の歴史 2	中世	複旋律を歌う	第7回	キリスト教音楽の歴史 3	ルネサンス	ラテン語で歌う 1	第8回	キリスト教音楽の歴史 4	バロック 1	ラテン語で歌う 2	第9回	キリスト教音楽の歴史 5	バロック 2	英語で歌う 1	第10回	キリスト教音楽の歴史	古典派	英語で歌う 2	第11回	キリスト教音楽の歴史	ロマン派	合唱曲を歌う	第12回	キリスト教音楽の歴史	近現代	合唱曲を歌う	第13回	楽典の基礎		合唱曲を歌う	第14回	声楽の基礎の徹底と復習			第15回	まとめと期末テスト		
第1回	授業の進め方について	および	キリスト教と音楽について																																																																
第2回	カトリック教会の音楽	発声の基礎 1	聖歌を歌う																																																																
第3回	英国国教会の音楽	発声の基礎 2	聖歌を歌う																																																																
第4回	プロテスタント教会の音楽	コラール	を歌う																																																																
第5回	キリスト教音楽の歴史 1	グレゴリオ	聖歌を歌う																																																																
第6回	キリスト教音楽の歴史 2	中世	複旋律を歌う																																																																
第7回	キリスト教音楽の歴史 3	ルネサンス	ラテン語で歌う 1																																																																
第8回	キリスト教音楽の歴史 4	バロック 1	ラテン語で歌う 2																																																																
第9回	キリスト教音楽の歴史 5	バロック 2	英語で歌う 1																																																																
第10回	キリスト教音楽の歴史	古典派	英語で歌う 2																																																																
第11回	キリスト教音楽の歴史	ロマン派	合唱曲を歌う																																																																
第12回	キリスト教音楽の歴史	近現代	合唱曲を歌う																																																																
第13回	楽典の基礎		合唱曲を歌う																																																																
第14回	声楽の基礎の徹底と復習																																																																		
第15回	まとめと期末テスト																																																																		
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学ぶ作品の読譜、練習、歌詞等について予習。学習時間：2時間 授業で学んだ作品について読譜、練習、歌詞の意味や発音等を復習。学習時間：2時間																																																																		
授業方法	演習 実際にチャペルで歌う。																																																																		
評価基準と評価方法	平常点70%、期末試験30% 平常点は授業内での歌唱、鑑賞態度、質疑応答、小テストなど。 授業回数が10回に満たない場合は評価の対称としない。																																																																		
履修上の注意	歌う授業なので声を出すことを厭わず、互いに聴き合い、音楽を共有する姿勢がのぞまれる。																																																																		
教科書	そのつど楽譜、資料を配布する。																																																																		
参考書	「キリスト教と音楽」金澤正剛著 音楽之友社 「聖歌集」日本聖公会 「合唱音楽の歴史」皆川達夫著 全音音楽出版社 「発声と身体のレッスン」鴻上尚史著 白水社																																																																		

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列																																																																		
科目名	教会音楽入門B																																																																		
担当教員	緋田 芳江					科目ナンバ-	Z1213B																																																												
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0																																																												
授業のテーマ	キリスト教音楽への理解を深める。演習を通し歌唱能力を高める。																																																																		
授業の概要	キリスト教音楽の学びを通して西洋音楽全般への理解を深め、知識を広げるとともに、実際に歌うことで声楽、アンサンブルの喜びを知る。期末試験を実施する。																																																																		
到達目標	キリスト教音楽と声楽について他者に説明することが出来る。【知識・理解】 教会音楽作品を歌うことが出来る。【態度・志向性】 教会音楽作品を聴き、深く理解することが出来る。【汎用的技能】																																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>授業の進め方について</td> <td>および</td> <td>教会暦について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>キリスト教と音楽について1</td> <td></td> <td>発声の基礎</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>キリスト教と音楽について2</td> <td></td> <td>発声の基礎</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>バッハのカンタータを学ぶ</td> <td></td> <td>ソルフェージュ</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>バッハの受難曲を学ぶ1</td> <td></td> <td>ソルフェージュ</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>バッハの受難曲を学ぶ2</td> <td></td> <td>斉唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ヘンデルのメサイアを学ぶ1</td> <td></td> <td>重唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ヘンデルのメサイアを学ぶ2</td> <td></td> <td>重唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>マニフィカトを学ぶ</td> <td></td> <td>重唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>クリスマスの作品1</td> <td></td> <td>合唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>クリスマスの作品2</td> <td></td> <td>合唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>クリスマスの作品3</td> <td></td> <td>合唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>レクイエムを学ぶ1</td> <td></td> <td>合唱の練習</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>レクイエムを学ぶ2</td> <td></td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめと期末テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							第1回	授業の進め方について	および	教会暦について	第2回	キリスト教と音楽について1		発声の基礎	第3回	キリスト教と音楽について2		発声の基礎	第4回	バッハのカンタータを学ぶ		ソルフェージュ	第5回	バッハの受難曲を学ぶ1		ソルフェージュ	第6回	バッハの受難曲を学ぶ2		斉唱の練習	第7回	ヘンデルのメサイアを学ぶ1		重唱の練習	第8回	ヘンデルのメサイアを学ぶ2		重唱の練習	第9回	マニフィカトを学ぶ		重唱の練習	第10回	クリスマスの作品1		合唱の練習	第11回	クリスマスの作品2		合唱の練習	第12回	クリスマスの作品3		合唱の練習	第13回	レクイエムを学ぶ1		合唱の練習	第14回	レクイエムを学ぶ2		復習	第15回	まとめと期末テスト		
第1回	授業の進め方について	および	教会暦について																																																																
第2回	キリスト教と音楽について1		発声の基礎																																																																
第3回	キリスト教と音楽について2		発声の基礎																																																																
第4回	バッハのカンタータを学ぶ		ソルフェージュ																																																																
第5回	バッハの受難曲を学ぶ1		ソルフェージュ																																																																
第6回	バッハの受難曲を学ぶ2		斉唱の練習																																																																
第7回	ヘンデルのメサイアを学ぶ1		重唱の練習																																																																
第8回	ヘンデルのメサイアを学ぶ2		重唱の練習																																																																
第9回	マニフィカトを学ぶ		重唱の練習																																																																
第10回	クリスマスの作品1		合唱の練習																																																																
第11回	クリスマスの作品2		合唱の練習																																																																
第12回	クリスマスの作品3		合唱の練習																																																																
第13回	レクイエムを学ぶ1		合唱の練習																																																																
第14回	レクイエムを学ぶ2		復習																																																																
第15回	まとめと期末テスト																																																																		
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で学ぶ作品について読譜、練習などの予習をする。学習時間：2時間 授業で学んだ作品について読譜、練習、歌詞の意味や発音等を復習し、次回に備える。学習時間：2時間																																																																		
授業方法	演習 実際にチャペルで歌う。																																																																		
評価基準と評価方法	平常点70%、期末試験30% 平常点は積極的な授業態度、授業内での歌唱、鑑賞態度、質疑応答、小テスト等を総合的に評価する。 授業回数が10回に満たない場合は評価の対称としない。																																																																		
履修上の注意	歌う授業なので声を出すことを厭わず、互いに聴き合い、音楽を共有する姿勢がのぞまれる。																																																																		
教科書	そのつど楽譜、資料を配布する。																																																																		
参考書	「キリスト教と音楽」金澤正剛著 音楽之友社 「聖歌集」日本聖公会 「合唱音楽の歴史」皆川達夫著 全音音楽出版社 「発声と身体のレッスン」鴻上尚史著 白水社																																																																		

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教思想／キリスト教思想I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教思想入門						
授業の概要	本講座ではキリスト教の思想面に光を当てる。19世紀や20世紀の代表的なキリスト教思想家を取り上げ、その作品や著作の中で神・自由・悪・救い・正義などといった人間の本質に関わる諸問題がどのように扱われているかを考察する。また、彼らの生涯、聖書やキリストに対する理解、さらに彼らの属する社会や教会の特徴などにも注目し、彼らの思想をその時代的・社会的背景において理解することにも努める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ教とキリスト教が西洋思想から受けた影響の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・講義中に紹介する思想家たちがそれぞれどのような中心テーマを持ち、どのような思想を展開したかを理解し、説明することができる。(知識・理解) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（講義内容の概略、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：神話（ミュトス）から理性（ロゴス）へ（フィロソフィア、哲学の誕生） 第3回：ソクラテス以前の哲学者たちの問題意識（タレス、ヘラクレイトス、デモクリトス、唯物論） 第4回：古代ギリシャ世界の宗教的社会的状況（敬神、正義、ポリス社会、ペルシャ戦争、ソフィスト） 第5回：ソクラテスとプラトン（無知の自覚、想起説、イデア論） —第1回小テスト 第6回：アリストテレスの世界観（質料形相論、哲学者の神、第一の不動の動者） 第7回：ヘレニズムの思想（ストア派、アレクサンドリアのフィロン、新プラトン主義） 第8回：ユダヤ教とギリシャ哲学の出会い（民族主義と普遍主義、一神教、七十人訳聖書、アポクリファ） 第9回：ユダヤ教文学（黙示文学、知恵文学、ヨブ記、悪、神義論） 第10回：イエス時代の宗教的社会的状況（洗礼者ヨハネ、メシア待望思想、神の国） —第2回小テスト 第11回：原始キリスト教団の信仰（ステファノの神殿批判、パウロの宣教、隣人愛と愛敵） 第12回：使徒的伝承とキリスト論論争（ドグマ、アリウス派、ネストリウス派、三位一体論） 第13回：キリスト教思想の形成（アウグスティヌス、中世キリスト教思想、トマス・アクィナス） 第14回：ルネサンスと宗教改革（ヒューマニズム、神中心主義から人間中心主義） 第15回：キリスト教思想の展開（講義の総括と展望） —第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間) 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	加藤隆『一神教の誕生：ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書 山田晶『トマス・アクィナスのキリスト論』創文社 日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と諸宗教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教						
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・日本人の宗教観と日本の宗教の基礎について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・ユダヤ教とキリスト教の関係史について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：宗教の起源（考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム） 第3回：神話（神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判） 第4回：儀礼（宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション） 第5回：日本人の宗教観（宗教統計調査、宗教意識の国際比較、神道、仏教、神仏習合） —第1回小テスト 第6回：近代日本の宗教政策（キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令） 第7回：国教制度と政教分離（西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離） 第8回：宗教間の関係（ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、共通性と相違、正典の構造） 第9回：古代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（ディアスポラ、タキトゥス、新約聖書、古代教父） 第10回：中世におけるユダヤ教とキリスト教の関係（エクレシアとシナゴーク、十字軍、『ヴェニス商人』） —第2回小テスト 第11回：近代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（近代革命、啓蒙思想、ハスカラ、ユダヤ知識人） 第12回：反ユダヤ主義とショアー（ホロコースト、コルベ神父、エディット・シュタイン、『夜と霧』） 第13回：反ユダヤ主義の思想的根拠（無神論、フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ） 第14回：現代におけるユダヤ教とキリスト教（第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世、ダブルー・エメト） 第15回：宗教間対話の展開（講義の総括と展望） —第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に3回の小テストを実施する。 						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト70%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	石井研士『プレステップ宗教学（プレステップシリーズ 08）』弘文堂 小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教と文化／キリスト教と文化I						
担当教員	岩井 謙太郎					科目ナンバ-	Z12070
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と文化との関わり						
授業の概要	本講義では、主として明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教と関係がある文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとしてキリスト教思想の特性を明らかにする。その際、キリスト教の学びの類型についても併せて紹介する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の学びの特性について説明することができる。【知識・理解】 ・近現代日本文学作品に見られるキリスト教思想の特性について説明することができる。【知識・理解】 ・キリスト教と世俗的文化との関係性について説明することができる。【知識・理解】 						
授業計画	<p>以下のテーマを中心に授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション／キリスト教と文化の関係性 第2回 キリスト教思想の特性① 神学 第3回 キリスト教思想の特性② 宗教哲学 第4回 キリスト教思想の特性③ 現代宗教学 第5回 日本文学とキリスト教の接点 第6回 夏目漱石『こころ』 第7回 筒井康隆『誰にもわかるハイデガー』 第8回 キリスト教における死生観の問題 第9回 志賀直哉『暗夜行路』 第10回 キリスト教における赦しの問題 第11回 三浦綾子『氷点』 第12回 キリスト教における罪の問題 第13回 遠藤周作『深い河』 第14回 キリスト教における他宗教との関わりの問題 第15回 まとめ／近現代日本文学におけるキリスト教思想 						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：各回授業で取り扱うキーワードについて書籍やインターネット等で調べておくこと（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で学んだ学習内容をノートにまとめて整理・確認すること（学習時間2時間）</p>						
授業方法	講義科目ではあるが、授業内容に対する意見や要望などをアンケートし、出来るだけ受講者各人の主体的関心を反映させながら授業を進めたい。また、理解の一助となるよう、映像（DVD等）の鑑賞も採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	<p>学期末に提出するレポート（60%）</p> <p>平常点【感想文および授業に対する積極的な取り組み】（40%）</p>						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席に満たない受講者はレポートの提出資格を失うものとする。						
教科書	教科書は使用しない。 レジュメを適宜配布する。						
参考書	安森敏隆他編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、2002年 その他、講義テーマに即した参考文献を授業内で随時紹介していく。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（授業への姿勢、グループワークへの取り組み） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（授業への姿勢、グループワークへの取り組み） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（授業への姿勢、グループワークへの取り組み） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（授業への姿勢、グループワークへの取り組み） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神洗罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（授業への姿勢、グループワークへの取り組み） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ） 第5回：創世記～出エジプト記（ヨセフ、モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（授業への姿勢、グループワークへの取り組み） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門 キリスト教の文化、思想が私たちの生活にも大きく影響していることを知る。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。キリスト教の思想は西洋文化の土台となっているので、それを学ぶことによって国際社会で生きるための確かな知恵と知識を習得できます。						
到達目標	(1) 建学の精神の土台であるキリスト教とその人間観を理解している。【知識・理解】 (2) 社会、文化、自然等に関わる幅広い教養を身につけている。【知識・理解】						
授業計画	第1回「キリスト教の基本思想」クリスチャンは何を信じているのか？ 第2回「天地創造」世界は神が創った？ビッグバンで始まった？ 第3回「アダムとエバ」最初の男と女、最初の結婚、そして最初の罪・・・。 第4回「カインとアベル」最初の兄弟、最初のライバル、そして最初の殺人・・・。 第5回「ノアの箱舟」墮落した人間は滅ぼされる？ 第6回「バベルの塔」もし世界の言語が一つだったら・・・。 第7回「アブラハムとイサク」もし自分の息子を殺せと言われたら・・・。 第8回「イスラエル民族とユダヤ人」世界史を動かしている主役は誰だ？ 第9回「イエスの誕生」イエスは神か人か？ 第10回「聖母マリア」マリアの処女降誕なんて、ありえない？ 第11回「イエスの癒し」イエスが病人を治したのは医術か奇跡か？ 第12回「十字架」この悲惨な刑罰は本当に必要だったのか？ 第13回「復活」死んだ人はどこに行くのか？ 第14回「キリスト教と日本文化」私たちは知らないうちにキリスト教の影響を受けている？ 第15回「まとめと期末試験」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業では聖書の内容について要約的に説明しますが、受講生は授業で取り上げた聖書の箇所を各自で通読して理解を確かなものにしていく必要があります。毎回の授業で扱った聖書の箇所を次の授業日まで読んで、授業の復習をしてもらいます（学習時間の目安：4時間/週）。						
授業方法	講義形式です。講義内で出された問題について、各自の意見を発表し、それについて賛成・反対に分かれてディスカッションを行います。ディスカッションに慣れていない学生も、授業内レポートを通して、議論に参加してもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点：30%（毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。レポートの内容によって毎回2点/1点/0点と評価していきます。欠席の場合は0点になります。） 期末試験：70%（授業全体の内容をどれだけ理解していたかを試す試験を最終回に行います。）						
履修上の注意	4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 細かい点数配分などについては、初回の授業で説明します。						
教科書	『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編付き）日本聖書協会 ※すでに聖書を持っている学生は、初回の授業で講師に相談して下さい。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	松平 功					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門：国際人に必要とされる基本的な聖書の知識を得る。						
授業の概要	<p>本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにあります。</p> <p>まず、古代ユダヤ教からキリスト教成立に至るまでの経緯と、現代日本に見られるキリスト教からの影響などを学び、また、聖書とその成り立ち、キリスト教の成立から世界への広がりも見ていきます。その説明の一部では、有名なキリスト教絵画を見て頂き、その絵画の訴えているメッセージを聖書で確認することもあります。また、沢山存在するキリスト教の教派の違いをできる限り簡単に解説し、世界に広がるキリスト教を概観します。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明することができる。(知識・理解) ● 旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚え、人に説明することができる。(汎用的技能) ● イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解できる。(知識・理解) ● 世界の常識と言えるような、聖書のストーリーを知り、キリスト教に対する興味をより具体的に意識することができる。(態度・志向性) 						
授業計画	<p>第一回 オリエンテーション 第二回 キリスト教とは何か 第三回 映像から見るイエス・キリスト：受難について 第四回 映像から見るイエス・キリスト：十字架と復活 第五回 旧約聖書の概要：天地創造から族長時代まで 第六回 旧約聖書の概要：出エジプトからカナン入植まで 第七回 旧約聖書の概要：カナン入植からソロモン王に至るまで 第八回 旧約聖書の概要：イスラエルの分裂からローマ帝国への属国時代まで 第九回 新約聖書の概要：イエスの降誕と時代背景 第十回 新約聖書の概要：イエスの宣教とその不思議の意味 第十一回 新約聖書の概要：イエスの語った様々なたとえと教え 第十二回 新約聖書の概要：イエスとその敵対勢力。なぜ十字架に架けられたのか 第十三回 新約聖書の概要：イエスの教える愛と、その行為 第十四回 新約聖書の概要：十字架での死と復活 第十五回 期末試験とまとめ</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業前準備学習：毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくようにしておくこと。毎回配布されるレジメを読み、聖書の箇所と照らし合わせて理解しておくこと(学習時間2時間)。(その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい) ● 授業後学習：聖書の通読をすること。ただし、内容が膨大なため、最低でも4つの福音書を全て通読すること(学習時間2時間)。 						
授業方法	講義形式。毎回の授業でその日のレジメを配布します。また、パワーポイントを使用するので視覚による学びも重視します。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ● クラスの後に小テストを何度か行う(合計30パーセント) ● 第15回目のクラスで期末試験を行う(50パーセント) ● 授業での発言や態度などの総合評価(20パーセント) 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 聖書を毎回持参すること。 ● 4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 ● 欠席や遅刻、教科書の不持参は減点対象となります。私語など好ましからぬ受講態度も同様です。 <p>なお、初回の授業で評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は初回授業を欠席しないようにして下さい。</p>						
教科書	『新共同訳聖書』(旧新約聖書、旧約続編なし)日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	土井かおる著『よくわかるキリスト教』PHP出版 ISBN: 4-569-63494-X 『アートバイブル』日本聖書協会 ISBN4-8202-4214-8 (注意：どちらの本も購入しなくて結構です。図書館で読んでください。)						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	松平 功					科目ナンバ-	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門：国際人に必要とされる基本的な聖書の知識を得る。						
授業の概要	<p>本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにあります。</p> <p>まず、古代ユダヤ教からキリスト教成立に至るまでの経緯と、現代日本に見られるキリスト教からの影響などを学び、また、聖書とその成り立ち、キリスト教の成立から世界への広がりも見ていきます。その説明の一部では、有名なキリスト教絵画を見て頂き、その絵画の訴えているメッセージを聖書で確認することもあります。また、沢山存在するキリスト教の教派の違いをできる限り簡単に解説し、世界に広がるキリスト教を概観します。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明することができる。（知識・理解） ● 旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚え、人に説明することができる。（汎用的技能） ● イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解できる。（知識・理解） ● 世界の常識と言えるような、聖書のストーリーを知り、キリスト教に対する興味をより具体的に意識することができる。（態度・志向性） 						
授業計画	<p>第一回 オリエンテーション 第二回 キリスト教とは何か 第三回 映像から見るイエス・キリスト：受難について 第四回 映像から見るイエス・キリスト：十字架と復活 第五回 旧約聖書の概要：天地創造から族長時代まで 第六回 旧約聖書の概要：出エジプトからカナン入植まで 第七回 旧約聖書の概要：カナン入植からソロモン王に至るまで 第八回 旧約聖書の概要：イスラエルの分裂からローマ帝国への属国時代まで 第九回 新約聖書の概要：イエスの降誕と時代背景 第十回 新約聖書の概要：イエスの宣教とその不思議の意味 第十一回 新約聖書の概要：イエスの語った様々なたとえと教え 第十二回 新約聖書の概要：イエスとその敵対勢力。なぜ十字架に架けられたのか 第十三回 新約聖書の概要：イエスの教える愛と、その行為 第十四回 新約聖書の概要：十字架での死と復活 第十五回 期末試験とまとめ</p> <p>※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業前準備学習：毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくようにしておくこと。毎回配布されるレジメを読み、聖書の箇所と照らし合わせて理解しておくこと（学習時間2時間）。（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい） ● 授業後学習：聖書の通読をすること。ただし、内容が膨大なため、最低でも4つの福音書を全て通読すること（学習時間2時間）。 						
授業方法	講義形式。毎回の授業でその日のレジメを配布します。また、パワーポイントを使用するので視覚による学びも重視します。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ● クラスの後に小テストを何度か行う（合計40パーセント） ● 第15回目のクラスで期末試験を行う（40パーセント） ● 授業での発言や態度などの総合評価（20パーセント） 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 聖書を毎回持参すること。 ● 4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 ● 欠席や遅刻、教科書の不持参は減点対象となります。私語など好ましからぬ受講態度も同様です。 <p>なお、初回の授業で評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は初回授業を欠席しないようにして下さい。</p>						
教科書	『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編なし）日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	土井かおる著『よくわかるキリスト教』 PHP出版 ISBN：4-569-63494-X 『アートバイブル』日本聖書協会 ISBN4-8202-4214-8 （注意：どちらの本も購入しなくて結構です。図書館で読んでください。）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	キリスト教の歴史／キリスト教の歴史I						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教史入門						
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母体として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数他の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書の成立史と翻訳の歴史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・ユダヤ教とキリスト教の歴史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・日本におけるキリスト教受容史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教史の学びを通じて、諸宗教と異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性) 						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書翻訳の歴史（聖書と言語、写本、ヒエロニムス、現代語訳聖書） 第3回：聖書翻訳の課題（「御大切」と「愛」「嗣業」、「ツアラアト」と「レプラ」、動物や植物の名称） 第4階：イスラエル宗教誕生の背景（文明社会と遊牧生活、国づくりと宗教、風土論） 第5回：イスラエル民族の形成（創世記、出エジプト記、モーセ、律法、十戒）—第1回小テスト 第6回：イスラエル宗教の形成（イスラエル王国の統一、王国の南北分裂、罪と自己正当化） 第7回：ユダヤ教の誕生（バビロン捕囚、預言者、エルサレムの債権、新しい選民思想） 第8回：旧約聖書の成立（初期ユダヤ教、エズラの役割、初期の聖書翻訳、ディアスポラ、ヤムニアの会議）、 第9回：イエスとその時代（ガリラヤ地方の地理的特徴、ユダヤ教の諸分派、終末思想） 第10回：イエスと律法学者の論争（安息日、サマリア人、徴税人、罪の許し、真の権威）—第2回小テスト 第11回：イエスとは誰か（イエスの弟子たちのイエス観、使徒的伝承の形成） 第12回：新約聖書の成立（パウロの書簡、四福音書の成立、共観福音書、聖書外典） 第13回：日本キリスト教史①（ザビエル、キリシタン、南蛮貿易、高山右近、伴天連追放令） 第14回：日本キリスト教史②（幕末維新期の宣教師、カクレキリシタンの発見、明治欧化政策と宣教師） 第15回：日本キリスト教史③（国家神道体制下のキリスト教、戦後のキリスト教宣教）—第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間） 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に3回の小テストを行なう。 						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト70%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） 						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』（朝日文庫） 五野井隆史『日本キリスト教史』（吉川弘文館） 鈴木範久『聖書の日本語 翻訳の歴史』（岩波書店）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	木鎌 耕一郎・藤井 尚人					科目ナンバ-	Z12100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教礼拝入門 ―その実際と歴史―						
授業の概要	<p>本講座の目的はキリスト教会の中心的営みである「礼拝」に対する理解を深めることにある。礼拝行為の自覚的・批判的考察が目的であるため、礼拝に関する実際の経験が前提となる。(オムニバス方式／全15回)</p> <p>初回授業で本講座の概要を説明する。またチャペルでの2度の授業では聖歌を共に歌い、礼拝を実際に体験してディスカッションを行う。</p> <p>歴史的視点からキリスト教礼拝を考察し、 sacramentや多様な礼拝形態に対する理解を養う。さらに礼拝と深い関わりを持つ教会音楽に触れる時を持つ。</p> <p>本学と歴史的に関係の深い聖公会の礼拝を例として取り上げ、キリスト教礼拝の実際とその意味を考察する。聖公会の祈禱書、教会暦、聖餐式などについて順次学んでいく。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教の礼拝に参加するために必要な基礎知識を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教礼拝の歴史の概略と礼拝形式の多様性を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・フィールドワークでの学び(チャペルでの礼拝体験、ヌーンサービス、主日礼拝)を通して、礼拝に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。(態度、志向性) 						
授業計画	<p>A. イントロダクション 第1回：オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価方法に関する説明)(木鎌・藤井) 第2回：祈りと礼拝(木鎌)</p> <p>B. 聖公会における礼拝(藤井) 第3回：教会の一年～教会暦～ 第4回：「祈禱書とは何か」～イングランド国教会の歴史～ 第5回：キリスト教の結婚式～ロイヤル・ウェディング～ 第6回：世界の若者が集まるテゼ共同体～歌と祈り～ 第7回：知っておきたい聖歌～日本聖公会聖歌集より～</p> <p>C. 歴史から見た礼拝(木鎌) 第8回：考古学に見る礼拝行為 第9回：諸宗教の礼拝形式 第10回：旧約聖書に見るユダヤ教の礼拝形式～主の過越し、ヨム・キップル～ 第11回：キリスト教の礼拝形式の成り立ち～洗礼、主の晩餐、主の祈り～ 第12回：ミサ(聖餐式)について～ミサの次第、教会の中に置かれている様々なものの意味～</p> <p>D. 礼拝の体験～フィールドワーク～(藤井、木鎌) 第13回：本学チャペルでの礼拝体験(ヌーンサービス2回以上の出席を含む) 第14回：キリスト教会の主日礼拝への参与(1回目) 第15回：キリスト教会の主日礼拝への参与(2回目)</p> <p>※ Dの「フィールドワーク」の時期は調整中であり、実際の授業週が13～15週にはならない場合がある。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。また、折に触れて「祈禱書」「聖歌集」に触れて、親しんでほしい。(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間) 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回から第12回は講義形式。 ・第13回から第15回は、フィールドワーク(実技形式)。 ・一部の授業でディスカッションを行うことがある。 						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題点70%(2名の教員がそれぞれの担当講義の中で課すレポート、小テスト、フィールドワーク(チャペルでの礼拝体験、ヌーンサービス2回以上、主日礼拝2回)後に課すレポート) ・平常点30%(リアクションペーパー、質疑応答、ディスカッションへの取り組み) 						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・4回以上欠席した学生は、原則として不合格とする。 ・フィールドワーク(チャペルでの礼拝体験、ヌーンサービス2回以上、主日礼拝2回)への参加は必須とし、これを満たさない場合は不合格とする。 ・主日礼拝の場所、日程等、移動方法等については授業時間内に知らせるので注意すること。 						
教科書	なし。随時プリントを配布する。 前もって指示された授業では聖書を持参すること。						

参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 ウィリアム・ウィリモン『言葉と水とワインとパン〜』（新教出版社） エドワード・フォーリー『時代から時代へ』（聖公会出版） 『日本聖公会 祈禱書』（1990年） 『日本聖公会 聖歌集』（2006年）
-----	--

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	現代のキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代世界の諸問題とキリスト教						
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。(知識・理解) ・現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。(知識・理解) ・グループワークと発表を通して、課題に応じて他者と共同して調べ、それをわかりやすく人に伝えることができる。(汎用的技能) (態度・志向性) 						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明）</p> <p>A. 人間の尊厳とキリスト教</p> <p>第2回：西洋思想史における人間の尊厳</p> <p>第3回：キリスト教と人間の尊厳</p> <p>第4回：東洋的人間観とキリスト教 —第1回小テスト</p> <p>B. 現代社会における倫理的課題とキリスト教</p> <p>第5回：隣人の範囲設定と社会的正当化</p> <p>第6回：優生思想との対決</p> <p>第7回：出生前診断</p> <p>第8回：人工妊娠中絶</p> <p>第9回：生殖医療の現在</p> <p>第10回：里親制度と養子縁組制度</p> <p>第11回：尊厳死、安楽死 —第2回小テスト</p> <p>C. 現代に生きる私たちとキリスト教（グループワークと発表）</p> <p>第12回：グループワークのテーマと発表方法の説明</p> <p>第13回：学生グループによるワークと発表、質疑応答</p> <p>第14回：学生グループによるワークと発表、質疑応答</p> <p>第15回：現代におけるキリスト教の課題（講義の総括と展望） —レポート課題の提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。(学習時間：2時間) ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間：2時間) 						
授業方法	講義およびグループワークと発表。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の小テストとレポート課題50%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・授業内での提出物等50%（講義内容へのコメント、グループワークと発表への取り組み状況） 						
履修上の注意	授業回数3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。後半のC(グループワークと発表)の出席は必須とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』（東信堂） 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問い直す』（上智大学）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 神戸松蔭での学び</p> <p>第2回 神戸松蔭で体験するキリスト教</p> <p>第3回 キリスト教とはどんな宗教か</p> <p>第4回 キリスト教と文化(1)－キリスト教と音楽</p> <p>第5回 キリスト教と文化(2)－礼拝と音楽</p> <p>第6回 聖公会とは</p> <p>第7回 日本とキリスト教</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(1)－再宣教時代の宣教師たち</p> <p>第9回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(2)－神戸松蔭の建学</p> <p>第10回 キリスト教と文化(3)－キリスト教と美術 (ゲスト・スピーカー招へい予定)</p> <p>第11回 いのちを考える(1)－聖書の教えから</p> <p>第12回 いのちを考える(2)－社会的実践</p> <p>第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ</p> <p>第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する(学修時間：2時間)</p> <p>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>基本的に講義であるが、一部の授業でチャペルに赴き、歌をうたうなどの実習、フィールドワークの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>キリスト教音楽に詳しい専門家のほか、教会関係者を招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)から(4)に関する到達度の確認。</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。</p> <p>期末試験：到達目標(1)から(3)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。</p> <p>携帯電話、スマートフォンは机の上に出さず、ポケットやカバンにしまうこと。</p> <p>試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</p>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会</p> <p>マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へ』かんよう出版</p> <p>五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館</p> <p>校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』</p> <p>神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』</p> <p>金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社</p> <p>吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社</p> <p>工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバ	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 神戸松蔭での学び</p> <p>第2回 神戸松蔭で体験するキリスト教</p> <p>第3回 キリスト教とはどんな宗教か</p> <p>第4回 キリスト教と文化(1)－キリスト教と音楽</p> <p>第5回 キリスト教と文化(2)－礼拝と音楽</p> <p>第6回 聖公会とは</p> <p>第7回 日本とキリスト教</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(1)－再宣教時代の宣教師たち</p> <p>第9回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(2)－神戸松蔭の建学</p> <p>第10回 キリスト教と文化(3)－キリスト教と美術 (ゲスト・スピーカー招へい予定)</p> <p>第11回 いのちを考える(1)－聖書の教えから</p> <p>第12回 いのちを考える(2)－社会的実践</p> <p>第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ</p> <p>第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する(学修時間：2時間)</p> <p>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>基本的に講義であるが、一部の授業でチャペルに赴き、歌をうたうなどの実習、フィールドワークの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>キリスト教音楽に詳しい専門家のほか、教会関係者を招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述的的確さを評価する。到達目標(1)から(4)に関する到達度の確認。</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。</p> <p>期末試験：到達目標(1)から(3)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。</p> <p>携帯電話、スマートフォンは机の上に出さず、ポケットやカバンにしまうこと。</p> <p>試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</p>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会</p> <p>マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へ』かんよう出版</p> <p>五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館</p> <p>校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』</p> <p>神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』</p> <p>金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社</p> <p>吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社</p> <p>工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバ	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 神戸松蔭での学び</p> <p>第2回 神戸松蔭で体験するキリスト教</p> <p>第3回 キリスト教とはどんな宗教か</p> <p>第4回 キリスト教と文化(1)－キリスト教と音楽</p> <p>第5回 キリスト教と文化(2)－礼拝と音楽</p> <p>第6回 聖公会とは</p> <p>第7回 日本とキリスト教</p> <p>第8回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(1)－再宣教時代の宣教師たち</p> <p>第9回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(2)－神戸松蔭の建学</p> <p>第10回 キリスト教と文化(3)－キリスト教と美術 (ゲスト・スピーカー招へい予定)</p> <p>第11回 いのちを考える(1)－聖書の教えから</p> <p>第12回 いのちを考える(2)－社会的実践</p> <p>第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ</p> <p>第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する(学修時間：2時間) ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間) 						
授業方法	<p>基本的に講義であるが、一部の授業でチャペルに赴き、歌をうたうなどの実習、フィールドワークの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>キリスト教音楽に詳しい専門家のほか、教会関係者を招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)から(4)に関する到達度の確認。</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。</p> <p>期末試験：到達目標(1)から(3)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。</p> <p>携帯電話、スマートフォンは机の上に出さず、ポケットやカバンにしまうこと。</p> <p>試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</p>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会</p> <p>マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へ』かんよう出版</p> <p>五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館</p> <p>校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』</p> <p>神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』</p> <p>金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社</p> <p>吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社</p> <p>工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 神戸松蔭での学び</p> <p>第2回 神戸松蔭で体験するキリスト教</p> <p>第3回 キリスト教とはどんな宗教か</p> <p>第4回 聖公会とは</p> <p>第5回 日本とキリスト教</p> <p>第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(1)－再宣教時代の宣教師たち</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(2)－神戸松蔭の建学</p> <p>第8回 キリスト教と文化(1)－キリスト教と音楽</p> <p>第9回 キリスト教と文化(2)－礼拝と音楽</p> <p>第10回 キリスト教と文化(3)－キリスト教と美術 (ゲスト・スピーカー招へい予定)</p> <p>第11回 いのちを考える(1)－聖書の教えから</p> <p>第12回 いのちを考える(2)－社会的実践</p> <p>第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ</p> <p>第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する(学修時間：2時間) ・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間) 						
授業方法	<p>基本的に講義であるが、一部の授業でチャペルに赴き、歌をうたうなどの実習、フィールドワークの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>キリスト教音楽に詳しい専門家のほか、教会関係者を招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標(1)から(4)に関する到達度の確認。</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。</p> <p>期末試験：到達目標(1)から(3)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。</p> <p>携帯電話、スマートフォンは机の上に出さず、ポケットやカバンにしまうこと。</p> <p>試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</p>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会</p> <p>マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へ』かんよう出版</p> <p>五野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館</p> <p>校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』</p> <p>神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』</p> <p>金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社</p> <p>吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社</p> <p>工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ナンバ-	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	<p>(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】</p> <p>(2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】</p> <p>(4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>第1回 神戸松蔭での学び</p> <p>第2回 神戸松蔭で体験するキリスト教</p> <p>第3回 キリスト教とはどんな宗教か</p> <p>第4回 聖公会とは</p> <p>第5回 日本とキリスト教</p> <p>第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(1)－再宣教時代の宣教師たち</p> <p>第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教(2)－神戸松蔭の建学</p> <p>第8回 キリスト教と文化(1)－キリスト教と音楽</p> <p>第9回 キリスト教と文化(2)－礼拝と音楽</p> <p>第10回 キリスト教と文化(3)－キリスト教と美術 (ゲスト・スピーカー招へい予定)</p> <p>第11回 いのちを考える(1)－聖書の教えから</p> <p>第12回 いのちを考える(2)－社会的実践</p> <p>第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ</p> <p>第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり</p> <p>第15回 授業内容のまとめと期末試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>・準備学習：シラバスをもとにあらかじめ書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する(学修時間：2時間)</p> <p>・授業後の学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する(学習時間2時間)</p>						
授業方法	<p>基本的に講義であるが、一部の授業でチャペルに赴き、歌をうたうなどの実習、フィールドワークの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>キリスト教音楽に詳しい専門家のほか、教会関係者を招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>授業内での提出物60%、期末試験40%。</p> <p>授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述的的確さを評価する。到達目標(1)から(4)に関する到達度の確認。</p> <p>リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。</p> <p>期末試験：到達目標(1)から(3)の到達度の確認。</p>						
履修上の注意	<p>遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。</p> <p>携帯電話、スマートフォンは机の上に出さず、ポケットやカバンにしまうこと。</p> <p>試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。</p>						
教科書	使用しない						
参考書	<p>『聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き』日本聖書協会</p> <p>マーク・チャップマン『聖公会物語－英国国教会から世界へ』かんよう出版</p> <p>野井 隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館</p> <p>校史編纂委員会編集『蔭女子学院創立120周年記念誌：1892～2012』</p> <p>神戸松蔭女子学院大学校史編纂委員会編集『神戸松蔭女子学院大学60周年記念誌：1947～2007』</p> <p>金澤正剛『キリスト教と音楽 ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社</p> <p>吉田実『絵画と御言葉 美術作品に表されたキリスト教信仰』一麦出版社</p> <p>工藤裕美、シリル・ヴェリヤト『宣教師マザーテレサの生涯－スコピエからカルカッタへ』ぎょうせい</p>						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	新約聖書を学ぶ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ-	Z12040
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	新約聖書を読む						
授業の概要	「新約聖書」は、27冊の書物を取りまとめたものです。どの書物も、イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になっていますが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちとは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。						
到達目標	(1) 新約聖書の四福音書それぞれの特徴の背景となっている歴史と成立の事情を理解できるようにする。(知識・理解) (2) 使徒言行録とパウロ等の書簡の特徴を理解し、説明できるようにする。(知識・理解) (3) 新約聖書の思想を踏まえて、現代社会の諸問題について自分の意見を持てるようにする。(汎用的技能)(態度・志向性)						
授業計画	第1回 ガイダンス(授業の目標と概要、評価方法についての説明) 第2回 聖書の構造、新約聖書諸文書の成立経緯 第3回 古代文書としての聖書 第4回 聖書翻訳の歴史と日本語聖書の成立 第5回 福音書を読む① イエスの誕生場面 — 第1回小テスト 第6回 福音書を読む② 洗礼者ヨハネとイエス 第7回 福音書を読む③ 愛の思想、山上の説教 第8回 福音書を読む④ 律法の専門家との論争 第9回 福音書を読む⑤ 奇跡物語、復活と聖霊降臨 第10回 福音書を読む⑥ 隣人愛と愛敵の思想 — 第2回小テスト 第11回 使徒言行録を読む① 初期キリスト教共同体の形成 第12回 使徒言行録を読む② 使徒的伝承の形成 第13回 パウロ書簡を読む① 隣人愛思想の展開 第14回 パウロ書簡を読む② ユダヤ教との関係 第15回 全体のとまとめと展望 — 第3回小テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 次の新約聖書の該当箇所を熟読し、疑問に思うことを自分で調べ、それでも理解できない点について書き留めておく。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業内で読んだ新約聖書の箇所と講義内容を再読し、身近な事柄や現代の社会問題に応用できる点を自ら考え、得られた知識を書き留める。(学修時間: 2時間)						
授業方法	・基本的に講義形式で行うが、必要に応じてディスカッションや意見を求めることがある。 ・授業初めの20分程度を聖書の輪読の時間にあてる。15回の授業で、共観福音書を読破することをめざす。受講者に輪読形式で「音読」をしてもらう。そのため遅刻は減点の対象とし、正当な理由がないかぎり20分以上の遅刻者は入室を認めない。						
評価基準と評価方法	・毎回の授業の最後に書いてもらうコメントシート(A:3点 B:2点 C:1点で評価をする):成績全体の30% ・3回の小テスト:成績全体の60%(1回の小テストは20%) ・平常点:10%(遅刻、私語や授業態度による減点が反映される)						
履修上の注意	・テキスト(聖書)を必ず持参すること。 ・授業初めの聖書の輪読を重視するので、遅刻には極力注意すること。 ・5回以上の欠席者は不合格とする。 ・小テストを2回受験しなかった場合、その時点で60点に満たなくなるので不合格となる。						
教科書	聖書 ・聖書を持っている場合には、初回授業に聖書を持参してください。翻訳によっては授業で使えないものがあります。 ・これから購入する場合は、日本聖書協会の最新の日本語訳聖書『聖書協会共同訳 聖書』、もしくは広く使われている日本聖書協会『新共同訳 聖書』を勧めます。						
参考書	・日本聖書協会『聖書スタディ版 新共同訳 わかりやすい解説付き』 ・辻学『隣人愛のはじまり 聖書学的考察』信教出版社 その他、適宜、授業中に紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技IIA						
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバ-	Z1212A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する						
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」パイプオルガン入門A Bでの学びの延長線上として、大オルガンでコラール変奏曲を演奏する。その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについての学びと、コラールの歌唱も行う。						
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。【汎用的技能】 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。【汎用的技能】 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。【知識・理解】 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。【知識・理解】 ⑤コラール変奏曲演奏のための、大オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。【汎用的技能】 ⑥コラール変奏曲を、大オルガンで美しく演奏できるようになる。【汎用的技能】 ⑦楽器についての知識を深め、オルガンという楽器の特異性を実感することが出来る。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方） 第3回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方） 第4回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方） 第5回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方） 第6回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び 第7回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏 第8回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり 聖歌歌唱 第9回：コラール変奏曲の曲の構成について 第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定 第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫 第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫 第13回：コラール変奏曲演奏の完成 第14回：試験準備 第15回：試験とまとめ <実技試験>大オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 <筆記試験>講義内容について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	大オルガンの個人練習						
授業方法	解説、実習						
評価基準と評価方法	平常点（授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20%						
履修上の注意	定員10名程度 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤演奏経験者が望ましい パイプオルガン入門A Bの履修修了者であることが望ましい 3分の2以上の出席が必要						
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）						

参考書	日本聖公会 聖歌集
-----	-----------

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	上野 静江					科目ナンバ-	Z1212B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（初級）						
授業の概要	チャペルの大オルガンを用いて、パイプオルガン演奏の基礎的な実習を行う。レパートリーとしては、コラールを題材に書かれたドイツバロックの平易な小品、さらにグレゴリオ聖歌を題材に書かれたフランス古典の小品を取り上げる。具体的な課題曲については、受講生に応じて個別に決定する。聖歌の伴奏についても取り上げる。						
到達目標	1) パイプオルガンを演奏するための基本的なテクニックを身につけることができる。【知識・理解】 2) 松蔭のオルガンについて詳しく知り、様々なパイプの効果的な使い方を知る。【知識・理解】 3) 聖歌について、長年歌い継がれてきた歴史的意義を、楽曲を通して意識、理解することができる。【態度・志向性】 4) コラールに基づく小品（ドイツバロック）を演奏できるようになる。【汎用的技能】 5) グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 オルガン奏法の基礎①（タッチ・楽器へのアプローチの確認） 第3回 オルガン奏法の基礎②（レジストレーション） 第4回 オルガン奏法の基礎③（ペダル） 第5回 楽曲への取り組み①（コラール） 第6回 楽曲への取り組み②（コラールと楽曲） 第7回 楽曲への取り組み③（詩編歌） 第8回 楽曲への取り組み④（詩編歌と楽曲） * 17～18世紀のコラールや詩編歌に基づく作品の中から、個人のレベルにあった曲を数曲選び、よりよい演奏に仕上げていくためのプロセスを、技術的な問題、楽曲の解釈等あらゆる側面から探ってゆく。 第9回 楽曲への取り組み⑤（フランス古典） 第10回 楽曲への取り組み⑥（プランジュ） 第11回 楽曲への取り組み⑦（グランジュ） 第12回 楽曲への取り組み⑧（コルネ） * グレゴリオ聖歌に基づく小品を取り上げ、松蔭のフランス様式のオルガンに相応しいレジストレーションとその響きを知る。 第13回 聖歌と伴奏 第14回 クラス内発表会での演奏の準備 第15回 クラス内発表会とその講評 * 学期中に取り組んだ楽曲の中から、コラールに基づく小品とグレゴリオ聖歌に基づく小品を1曲ずつ選び、演奏する。レジストレーションも各自の責任でできるように準備する。終了後は、お互いの演奏にコメントしあう時間を持ち、他の人の演奏を客観的に聴き、批評することを経験する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、次回までに演奏に反映できるように練習する。（学習時間：2時間） 練習のしかた、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。						
授業方法	グループレッスン形式による実技、演習、講義。 毎回のテーマ、楽曲についての概説をすすめながら、各人が実力に応じた課題曲をチャペルのパイプオルガンで実際に演奏する。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）						
履修上の注意	・「パイプオルガン入門AB」を履修済みであることが望ましい。 ・十分に練習の上で授業にのぞむこと。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に紹介する。						

参考書	<ul style="list-style-type: none">・日本聖公会 聖歌集・ルター派 教会讃美歌・「クラヴィス」大塚直哉編
-----	--

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門A						
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバ-	Z1111A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンへのアプローチ ～楽器、礼拝、音楽の視点から～						
授業の概要	<p>「パイプオルガンへ多角的に近づく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイプオルガンという楽器について、ルーツと発音の仕組み、歴史や国ごとの違いを学ぶ ・礼拝について、また礼拝と音楽との関係性について、概略を学ぶ ・オルガンで美しい音を鳴らす工夫と、実際に聖歌を歌い伴奏する体験をする <p>* 以上について、知識だけではなく、視覚的・聴覚的・身体的体験からの習得の機会とする</p>						
到達目標	<p>①パイプオルガンという楽器について知ることができる 1、しくみ 2、オルガンの歴史 3、オルガン音楽のレパートリー【知識・理解】</p> <p>②礼拝について知ることができる 1、礼拝と歌・オルガンとの関係 2、教会暦とその音楽【知識・理解】</p> <p>③上記①②により「パイプオルガンは息の楽器であり、礼拝と共に歩んできた」ことを習得した上で、実際に聖歌を歌い、美しい伴奏（ソプラノ声部とバス声部の二声）を行うことができる【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>④上記①～③の習得は、オルガン入門Bにおける四声体聖歌とコーラル演奏のための導入となる</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：【楽器1】「ルーツと仕組み」パイプオルガンの三大要素について、楽器内部の見学</p> <p>第3回：【楽器2】「笛について」様々な笛の観察と、それらの特色や違いについて</p> <p>第4回：【楽器3】「オルガンのスタイル」国ごとのオルガンの特色や歴史と、そのスタイル</p> <p>第5回：【楽器4】「音楽史」オルガン音楽のレパートリーの、音楽史上での位置づけについて</p> <p>第6回：【礼拝1】「礼拝とは」ミサの起源、様々な礼拝について</p> <p>第7回：【礼拝2】「礼拝における音楽」古代からグレゴリオ聖歌、現代の聖歌集まで</p> <p>第8回：【礼拝3】「教会暦」クリスマス、受難節、イースターについてとその音楽</p> <p>第9回：【礼拝4】「コーラル」ルターの宗教改革からバッハのカンタータまで</p> <p>第10回：【演奏1】「美しい音を鳴らす」オルガンのタンギングやタッチの工夫</p> <p>第11回：【演奏2】「うた」聖歌の歌唱における、身体の使い方の体験</p> <p>第12回：【演奏3】「指揮」聖歌の歌唱を指揮する体験</p> <p>第13回：【演奏4】「二声での奏楽1」10, 11, 12回の体験をもとにポジティブオルガンで奏楽</p> <p>第14回：【演奏5】「二声での奏楽2」各自の練習の成果をもとに大オルガンで奏楽</p> <p>第15回：試験とまとめ <実技試験>大オルガンで聖歌を二声で伴奏（全員で歌唱） <筆記試験>講義内容について</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	オルガン練習室での個人練習（第6回授業以降） 個人練習時間を一週間にひとり20～30分間取得することができる これは授業中の実技体験を充実させるために必要である						
授業方法	授業形態・授業方法： 講義形式の解説、音楽や映像の鑑賞、学生による実習 特に後半では、実技を中心に進める						
評価基準と評価方法	平常点（内容：授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20% レポート提出2回、試験						
履修上の注意	定員20名 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤楽器経験者が望ましい 3分の2以上の出席が必要						

教科書	特になし（授業時にプリントを配布）
参考書	金澤正剛 著「キリスト教と音楽」＜音楽之友社＞ 大塚直哉 編「クラヴィス～むかしの鍵盤楽器を弾いてみよう～」現代ギター社 日本聖公会 聖歌集

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教系列						
科目名	パイプオルガン入門B						
担当教員	上野 静江					科目ナンバ-	Z1111B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンを用いてのパイプオルガン実技入門。 パイプオルガンを弾くための基礎的な奏法からはじめ、聖歌、さらに聖歌に基づく平易な小品を取りあげる。 楽器の構造、歴史、様式を踏まえた上で、演奏に必要な基礎的知識、技術を学ぶ。						
到達目標	1) パイプオルガンを演奏するための基礎的なテクニックを身につけることができる。【知識・理解】 2) 松蔭のオルガンについて、その特徴、概要を知る。【知識・理解】 3) 聖歌集について、その内容や背景、教会歴に基づく分類、用い方を知る。【知識・理解】 4) 聖歌を歌詞や曲の意味を体現しつつ歌いやすく奏楽できるようになる。【態度・志向性】 5) 聖歌に基づくオルガン作品を演奏できるようになる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 パイプオルガンについての基礎知識 第3回 オルガン奏法の基礎（1）姿勢・呼吸 第4回 オルガン奏法の基礎（2）タッチ 第5回 オルガン奏法の基礎（3）ペダル 第6回 オルガン奏法の基礎（4）レジストレーション 第7回 聖歌を弾いてみる（1）旋律 第8回 聖歌を弾いてみる（2）和声 第9回 コラール前奏曲を弾いてみる（1）成立の背景 第10回 コラール前奏曲を弾いてみる（2）音色の工夫 第11回 松蔭のオルガンの概要とその特徴ある響きの所以を知る 第12回 クラス内発表会の準備（1）レジストレーション選定 第13回 クラス内発表会の準備（2）音を客観的に捉える訓練 第14回 クラス内発表会の準備（3）全体をまとめる 第15回 クラス内発表会（期末試験を兼ねる）とその講評 *学期中に取り組んだ曲の中から聖歌と前奏曲を1曲ずつ選び演奏する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲についてまず読譜し、その成立や背景についても配布資料等で下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、次回までに演奏に反映できるように練習する。（学習時間：2時間） 練習のしかた、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。						
授業方法	グループレッスン形式による実技、演習、講義。 毎回のテーマ、楽曲についての概説をすすめながら、基礎練習を経て各人が実力に応じた課題曲をチャペルのパイプオルガンで実際に演奏する。						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）						
履修上の注意	鍵盤楽器の経験があること。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介する。						
参考書	『クラヴィス』大塚直哉編 聖歌集（日本聖公会）						